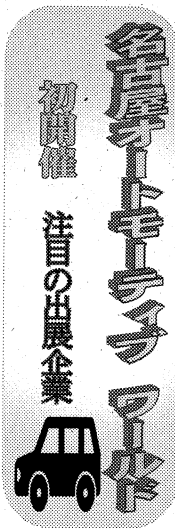


山下電気(山下慎一郎社長)は、自動車向けの樹脂成型加工を手掛けている。溶かした樹脂を金型に流し込む射出成型で、金型の温度を制御する独自技術「Y-Heat」が同社の強み

独自技術「Y-Heat」で温度を制御するコントローラ

山下電気



金型温度の「Y-Heat」独自制御技術 (2)

<メモ>▽本社=東京都品川区▽電話=03・3740・2411▽設立=1936年▽従業員数=180人

温度調節で「V字の溝」なくす

射出成形品の外観・機能向上

だ。こととして技術開発から10年目を迎え、多くの自動車部品メーカーで採用が進んでいる。

一般的に射出成型では、金型に流し込んだ樹脂が合流する部分に「ウエルドライン」と呼ばれるV字の溝ができ、傷のように見える

埋め込み、コントローラーより、成型品の反りをコントロールして機能面の向上が図れるほか、ガラス繊維入り透明樹脂の透明度を高めたり、樹脂と金属が接合する面の密着度を高めることもできる。新たな技術応用の可能性を模索し、現在も技術開発に取り組んでいる。

車の内装に使われる黒色塗装「ピアノブラック」調の部品は、光沢があり傷が目立ちやすいことから同技術の引き合いが増えている。ミリ波レーダーを内蔵したエンブレムなど、精度が求められる製品にも強みを生かせる。

ことがある。「Y-Heat」は、ヒーターを金型に

なくすことで成形品の外観を良くするほか、ウエルドラインを隠すための塗装処理が不要になり費用削減や不良損失の低減につながる。特許技術のライセンス販売と成形品の受注生産を行っており、ライセンスを契約した企業は金型の製作を自社や協力会社で行える。

「名古屋オートモティブワールド」に出展し、同技術を提案する。2022年をめぐり、技術のライセンス契約社数で現在の倍の100社を目指す。

同技術の最大の特長は、保圧や冷却を含む射出成型サイクルの全域で温度制御ができることだ。この特長に広く採用されている。自動